

## 新潟県中越地震を訪れて(17.2.16)

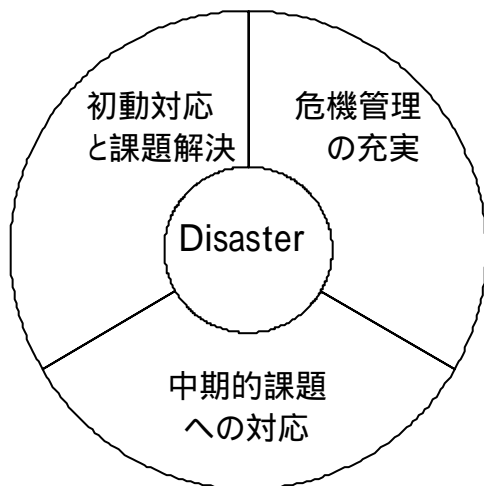
(この文面は、神戸の絆ネットワークへの参画を呼びかけた際の配布資料です。)

### 1. 神戸市職員の支援活動

- (1) 概況 12/20 までに全ての避難所が閉鎖され、仮設住宅での生活に移っており、応急復旧は極めて早い。現在は、豪雪の中、春先に向けた課題の検討に入っている。地震規模、発生時期、村落部での集中被害など神戸と異なる面が多く、神戸の体験・教訓の全てが役立つものではないが、被災者としての厳しい局面は共通しており、息の長い取り組みが始まっている。
- (2) 派遣職員 10/25 以降 総計約 130 名  
事務・技術職員、保健師、医師、看護師、消防職員など
- (3) 中越地震臨時支援プロジェクトチームの立ち上げ  
12/6 支援活動に当たった職員、3班 28名で構成 活動目標 1年

### 2. 神戸の絆ネットワークの構築

- (1) 感謝と参加の呼びかけ  
神戸市職員で構成する震災バンク 3,500 人、阪神大震災で神戸市に支援に来ていただいた他都市自治体職員(約 800 自治体、8,000 人)へ呼びかけ、専用 HP を立ち上げ、情報共有の上で自立的な活動支援の絆を構築する。また、コアとなる職員を中心にスキルアップを図り、学校教職員の参画もすすめる。
- (2) NPO の立ち上げ  
今後、退職する職員も増えていくため、退職職員の NPO を立ち上げる。
- (3) 情報の共有と支援活動の概略



危機管理の充実  
救急・救命・消火活動、避難所開設、  
救援物資、仮設トイレ、廃棄物処理  
マスコミ対応、問い合わせ対応など組織  
初動対応と課題解決  
救援物資受け入れ、ボランティア対応、  
ライフライン復旧、学校再開、心のケア  
罹災証明、災害給付、仮設住宅対応  
中期的課題への対応  
復興計画の策定、復興住宅の確保、  
くらし・経済の再生

### 3. あの日を忘れないために

- (1) 神戸が震災で学んだ「生命、絆、感謝」を被災地支援をとおして実践していく。
- (2) 多くの市民、職員からの義援金や支援活動が続いている  
救援カンパや災害支援ボランティア、 illumination バスの訪問など